



The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

電子情報通信学会 特別号 April 2022

情報・システムソサイエティ誌

IEICE INFORMATION AND SYSTEMS SOCIETY JOURNAL

## 2022年度ソサイエティ活動

情報・システムソサイエティ次期会長

佐藤 真一

国立情報学研究所



情報・システムソサイエティ(以下 ISS)は、情報処理システムを構成するコンピュータ・基盤ソフトウェアから応用ソフトウェア、さらには情報システムを取り巻く通信・データ・人間にわたる幅広い話題をカバーし、基盤となるアルゴリズムやアーキテクチャの検討から、応用システムの構築にまで至る分野を包含する、多様な分野を扱う、本会最大規模のソサイエティです。我々の社会は情報処理システムがあまねく行き渡り、情報技術の重要性は増す一方です。ISS では、会員に最新研究・コミュニティ・人との出会いの場、研究発表の場を提供し、情報・システムにまつわる学問分野の発展に貢献し、会員のさらなる活躍の一助となることを目指します。特に以下に重点を置いた活動を計画しています。

### (1) 論文誌

論文誌は会員の研究発表の場であると同時に最新の研究成果を知るための重要な媒体であり、引き続き質・量ともに充実に努めます。英文論文誌(ED)では、2017年1月から他ソサイエティに先がけ、過去の発行論文を含め、J-STAGE に搭載されている全論文のオープン公開を試行し、2020年1月から全論文をオープンアクセス化しています。2016年と比し2021年9月までのアクセス数は約9倍に増加しています。インパクトファクタの上昇も見られ、オープン化の効果が見え始めていると考えています。和文論文誌Dでは、その最大の特徴である丁寧で質の高い査読を継続することに加え、学生やジュニア会員からの投稿の活性化についても検討を続けてまいります。

### (2) 研究会

現在、ISSには26の研専(特別研専を含む)があり、研究会を主たる場として、それぞれの技術分野に特化した、より深く専門性の高い研究発表の場、最新研究・コミュニティ・人との出会いの場を提供してきています。残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大により研究会の

開催方法も大幅な変更を余儀なくされ、当面は最適な方法の探求が続くと思われまます。その一方、オンラインでの研究会開催が通例となってきたことにより、研究発表のアーカイブ化の親和性が高まることが期待されることを受け、会員にとって資料的価値の高い招待講演等のアーカイブ化について積極的に検討してまいります。

### (3) 総合大会とFIT

昨年度、総合大会やFITはオンライン開催となりました。今年度もまだ予断を許さない状況ですが、旧来の実開催のみに戻すことは考え難く、オンラインもしくはハイブリッド開催となると思われまます。主として学生等の発表者に従来通りの教育的効果を実現するにはまだ工夫が必要と思われまます。一方聴講する側の利便性は大いに高まっており、実際聴講参加者は増加傾向にあります。特に学生やジュニア会員には聴講は極めて容易であり、こうした聴講者を積極的に呼び込むとともに、多数の聴講者による発表者への適切な動機付けについて検討してまいります。

### (4) 国際化

国際学会IEEE-CSやIAPRとの連携に加え、昨年度新たにAPSIPAとのMOU締結に至りました。今後もさらに国際学会との連携を進めると同時に、それに基づく会員に資する施策について検討してまいります。加えて、トップ国際会議等での研究動向調査や論文採択の推進等にも注力してまいります。

以上のように、ISSでは会員サービス向上に取り組んでまいります。会員の研究開発や技術開発での成功は、会員自身、ISS、本会、ひいては我が国の情報技術分野における成功につながるものと考えています。ISSは、こうした点で、会員の皆様の一助となることを目指してまいります。引き続きのご協力・ご支援をお願い申し上げます。

## 情報・システムソサイエティ誌とは？

情報・システムソサイエティが1996年度より年4回発行しているソサイエティ会員向けの情報誌です。

内容は、ソサイエティからのお知らせ、研究専門委員会の動向、研究室紹介、フェローの方々による寄稿、連載コラムなど、会員の皆様の役に立つ情報を満載しております。

特に、毎号の巻頭言には、電子情報通信分野の著

者の方々から寄稿を頂き、好評を博しております。今後も学生や企業の方などより幅広い方々に役立てて頂けるよう、ますます内容の充実を図る予定です。

情報・システムソサイエティ誌は、情報・システムソサイエティに登録をすれば自動的に送付されます。以下でも更に詳しく御紹介します。

### ISS 達人へのステップ 1

#### 情報・システムソサイエティ (ISS) への登録を

電子情報通信学会では1995年4月よりソサイエティ制になり、会員はいずれかのソサイエティに属することになっています。

これから学会に入会される方はもちろん、複数のソサイエティへの登録を希望される方も、ぜひISSに御登録下さい。なお、複数に登録する場合のISSソサイエティ

誌及びオンラインジャーナル購読の追加登録料は3,500円(学生は2,000円)です。ISSへの追加登録を御希望の方は、早急に下記の様式で御連絡下さい。

購読のほかにISSの様々な特典が利用できます。また、ISS論文誌を購読する場合はステップ2を参照して下さい。

### ISS 達人へのステップ 2

#### 情報・システムソサイエティ (ISS) の論文誌は和英2種類

基本登録でオンラインジャーナル(和・英論文誌)の閲覧が可能です。追加登録を御希望の方は早急に下記の様式で御連絡下さい。

なお、和文論文誌D及び英文論文誌Dのキーワードは下記のとおりです。

#### キーワード：

情報・システム基礎／計算機システム／ソフトウェアシステム／ソフトウェア工学／データ工学、Web情報システム／情報ネットワーク／ディペンダブルコンピューティング／人工知能、データマイニング／ヒューマンコンピュータインタラクション／オフィスインフォメーションシステム、e-ビジネスモデリング／教育工学／福祉工学

パターン認識／音声、聴覚／画像・映像処理／画像認識、コンピュータビジョン／コンピュータグラフィックス／マルチメディア処理／自然言語処理／バイオサイバネティクス、ニューロコンピューティング／生体工学／音楽情報処理／感性情報処理

連絡先： E-mail: kaiin2@ieice.org Phone: 03-3433-6691(ガイド番号:1) Fax: 03-3433-6659

名 前 (会員番号 )  
所 属  
連絡先 〒  
Phone: Fax: E-mail:  
ISS ソサイエティ追加 (オンラインジャーナルとソサイエティ誌)

\*なお、オンラインジャーナルの閲覧は登録処理後からとなります。  
(現在、英文論文誌Dはオープンアクセス化を実施中です。)

## ISS 達人へのステップ3

## 情報・システムソサイエティ(ISS)所属研究会の年間登録を

ISSには23の研究専門委員会（特別研専を含まない）があり、それぞれが活発に研究会（第一種研究会）を開催しています。2021年には、ISSにおいてのべ109回の研究会が開催され、約2,000件の発表が行われました。2020年度には、研究会参加費の改訂により、研究会にご参加頂きやすくなりました。特に年間参加登録がお勧めです。年間参加登録を行えば、学会Webページのプログラム上に予稿（技報）ダウンロード用のリンクが現れ、参加できない回の方も含めて簡単かつタイムリーに技報を入手できるようになりますので、大変便利です。学生員は3研究会まで無料で年間参加登録できます！さらに、ISSの全ての第一種研究会への一括参加登録（ひと月あたり1,100円（税込）のコストです）を行えば、当該年度のISSの全ての研究会の技報をWebのプログラム画面から入手できるようになり、極めて快適です。技報オンラインシステム(<https://www.ieice.org/ken/user/>)にログインし（未登録の場合はユーザ登録が必要）、[技報完全電子化]参加費・年間登録費のお支払い/ダウンロード権の購入のリンクからご登録ください。クレジットカード決済または請求書払いが可能です。どうぞ積極的に研究会活動をご活用ください。

表1：研究会参加費

	オンライン申込（税込）		当日現金払（税込）	
	会員	非会員	会員	非会員
一般	1,980 円	2,970 円	2,000 円	3,000 円
学生（注）	500 円	1,100 円	500 円	2,000 円

注：学生で技報電子ファイル不要の場合は、参加費は無料です。

表2：研究会年間登録費（会員の場合）

研究会（記号）	登録費（税込）	委員長
ME とバイオサイバネティクス(MBE)	6,600 円	奥野 竜平(摂南大)
ライフインテリジェンスとオフィス情報システム(LOIS)	6,600 円	小林 透(長崎大)
画像工学(IE)	6,600 円	児玉 和也(NII)
言語理解とコミュニケーション(NLC)	4,400 円	嶋田 和孝(九工大)
コンピュータシステム(CPSY)	4,400 円	鯉渕 道紘(NII)
コンピューテーション(COMP)	5,500 円	増澤 利光(阪大)
人工知能と知識処理(AI)	4,400 円	清 雄一(電通大)
ソフトウェアサイエンス(SS)	4,400 円	小林 隆志(東工大)
データ工学(DE)	4,400 円	吉田 尚史(駒澤大)
パターン認識・メディア理解(PRMU)	5,500 円	内田 誠一(九大)
ディペンダブルコンピューティング(DC)	6,600 円	高橋 寛(愛媛大)
ニューロコンピューティング(NC)	5,500 円	大須 理英子(早大)
知能ソフトウェア工学(KBSE)	5,500 円	中川 博之(阪大)
音声(SP)	4,400 円	北岡 教英(豊橋技科大)
教育工学(ET)	6,600 円	渡辺 健次(広島大)
医用画像(MI)	5,500 円	本谷 秀堅(名工大)
ソフトウェアインタプライズモデリング(SWIM)	4,400 円	五月女 健治(法政大)
リコンフィギュラブルシステム(RECONF)	4,400 円	佐野 健太郎(理研)
情報通信システムセキュリティ(ICSS)	4,400 円	吉岡 克成(横浜国大)
情報論的学習理論と機械学習(IBISML)	4,400 円	竹内 一郎(名工大)
マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント(EMM)	6,600 円	西村 竜一(NICT)
クラウドネットワークロボット(CNR)	4,400 円	神原 誠之(奈良先端大)
サービスコンピューティング(SC)	4,400 円	菊地 伸治(物質・材料研究機構)
上記の全ての研究会への一括参加登録	13,200 円	

# FIT2022 第21回情報科学技術フォーラム 選奨論文・一般論文 講演募集案内



【会期】2022年9月13日(火)～15日(木)  
【会場】慶応義塾大学 矢上キャンパス

FIT2022 Web ページ <https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2022/>

受付期間：2022年3月29日(火)～5月11日(水)

電子情報通信学会 情報・システムソサイエティならびにヒューマンコミュニケーショングループは、情報処理学会と合同で、2002年から毎年秋季に「情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)」を開催しており、2022年9月に第21回目を慶応義塾大学矢上キャンパスで開催します。

FIT2017より「査読付き論文」を廃止し選奨論文制度を導入しました。論文の種類は、「選奨論文」と「一般論文」があり、「選奨論文」の中から、船井ベストペーパー賞及びFIT論文賞を、「一般論文」の中からFIT奨励賞を選定し表彰します。また、論文の種類に関わらず、若手研究者を対象に優れた発表をした方を選定し、FITヤングリサーチャー賞として表彰します。

## 【FIT論文表彰制度】

船井ベストペーパー賞	選奨論文の中からFIT学術選定委員会で審査の上、3件選定 賞金は船井情報科学振興財団より20万円贈呈
FIT論文賞	選奨論文の中からFIT学術選定委員会で審査の上、7件程度選定 賞金はFIT運営委員会より5万円贈呈
FITヤングリサーチャー賞	2022年12月31日現在で33歳未満の講演者の中から、特に優れた発表をされた方を選定 賞金はFIT運営委員会より3万円贈呈
FIT奨励賞	一般論文のセッション毎に座長の裁量で優秀な発表を1件その場で選定(該当なしもあり) FIT後に賞状贈呈

多彩なイベントが企画され広範な分野の研究者が一堂に会する本フォーラムは、皆様にすばらしい研究成果発表と最新の情報収集の場を提供します。詳細は逐次上記「FIT2022 Web ページ」に掲載いたします。

## ○● 電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ誌編集委員会 ●○

- 副会長(編集会議担当)  
岩野 公司(東京都市大 iwano@tcu.ac.jp)
- 編集委員長  
坪下 幸寛(杏林大 yukihiro-tsuboshita@ks.kyorin-u.ac.jp)
- 編集幹事  
日置 尋久(京大 hioki.hirohisa.2x@kyoto-u.ac.jp)  
大沼 亮(津田塾大 r.onuma@tsuda.ac.jp)
- 特任編集幹事  
菅谷 史昭(マインドワード fsugaya@mindword.jp)  
松居 辰則(早大 matsui-t@waseda.jp)  
門田 啓(NEC monden@nec.com)  
篠崎 隆宏(東工大 shinot@ict.e.titech.ac.jp)  
林 良一(NTT ryoichi.hayashi@hco.ntt.co.jp)  
神原 誠之(奈良先端大 kanbara@is.naist.jp)  
金子 晴彦(東工大 kaneko@c.titech.ac.jp)  
大塚 真吾(神奈川工科大 otsuka@ic.kanagawa-it.ac.jp)
- 企画広報幹事  
山本 琢磨(富士通研 takuma.yamamoto@fujitsu.com)
- 和文論文誌編集副委員長  
横川 智教(岡山県立大 t-yokoga@cse.oka-pu.ac.jp)
- 英文論文誌編集副委員長  
光来 健一(九工大 kourai@ksl.ci.kyutech.ac.jp)

- 編集委員  
堀瀬 友貴(東京女子医大 horise.yuki@twmu.ac.jp)  
中村 幸博(大阪国際工科専門職大 nakamura.yukihiko@iput.ac.jp)  
工藤 忍(NTT shinobu.kudo.ys@hco.ntt.co.jp)  
高橋 寛治(Sansan ka.takahashi@sansan.com)  
木村 睦(龍谷大 mutsu@rins.ryukoku.ac.jp)  
戸田 貴久(電通大 toda@disc.lab.uec.ac.jp)  
太田 唯子(富士通研 yuiko@fp.fujitsu.com)  
林 晋平(東工大 hayashi@c.titech.ac.jp)  
大塚 真吾(神奈川工科大 otsuka@ic.kanagawa-it.ac.jp)  
三木 亮祐(日立 ryosuke.miki.ah@hitachi.com)  
金子 晴彦(東工大 hkaneko@fuji.cs.titech.ac.jp)  
安部川 直稔(NTT naotoshi.abekawa.yu@hco.ntt.co.jp)  
金子 朋子(NII t-kaneko@nii.ac.jp)  
郡山 知樹(東大 tomoki\_koriyama@ipc.i.u-tokyo.ac.jp)  
大沼 亮(津田塾大 r.onuma@tsuda.ac.jp)  
大竹 義人(奈良先端大 otake@is.naist.jp)  
五月女 健治(法政大 saotome@hosei.ac.jp)  
小林 諒平(筑波大 kobayashi@cs.tsukuba.ac.jp)  
伊藤 伸志(NEC i-shinji@nec.com)  
日置 尋久(京大 hioki.hirohisa.2x@kyoto-u.ac.jp)  
神原 誠之(奈良先端大 kanbara@is.naist.jp)  
細野 繁(東京工科大 hosonosgr@stf.teu.ac.jp)  
浦 正広(金工大 mura@neptune.kanazawa-it.ac.jp)  
上原 稔(東洋大 uehara@toyo.jp)